

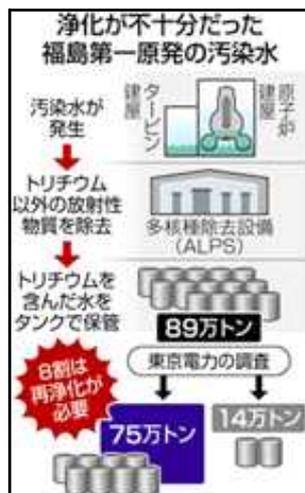
＝第4回講座「吉井英勝元衆議院議員講師に原発ゼロ基本法案・実現をめざして」でまとめました＝

質問も意見もいっぱい、充実！！

原発をやめ、地産地消の自然エネルギー中心のくらしへ転換させる運動は重要です。そのため人々に説明出来る『語り部』を増やす『連続講座』の第4回が6月6日兵庫労連会館で開かれました。この日は参議院選挙の争点のひとつでもある『原発ゼロ基本法案の実現めざして』をテーマに原子力工学の専門家で元衆議院議員の吉井英勝さんに講師をしてもらいました。

参加は、兵庫民医連・兵庫労連・兵庫革新懇・共産党県委・電力兵庫の会・神鋼火電反対の会・関電前カンキン行動参加者・神戸女学院大学の学生や教授・反原発西宮の会・いしずえ会・三菱重工・A企業・市民など30名でした。

吉井講師は、80枚を超えるパワーポイント画像で、最初に今も続く東電福島原発事故の実態を明らかにし、あの地震・津波で女川原発・東海第2原発も危なかった事実も話しました。電気をつくる原発が地震で送電鉄塔が倒れ外部電源が遮断されて爆発にまで至ったことは、地震・火山で揺れる列島では、いつでも全国原発であり得ることも指摘しました。



ついで、少しずつ考えが異なる「反原発・脱原発・原発ゼロ・原自連」などの運動体が、互いに意見を結集し国民合意となった「原発ゼロ基本法案」の作成過程を説明。法案内容では、稼働中原発の停止、停止後の対策、国会提出後の流れ、この基本法に付随する実施法と既存の悪法との関係、原発立地地域への対策など順次解説しました。

これを実現するには「憲法第8章の地方自治が示す道」にしっかり立つ重要性を強調、自然エネルギー発電を地域住民・自治体・農林漁業者・熱心な諸企業などで創造している事例も紹介、ただ外来型大資本による風力・メガソーラへなど自然破壊を伴う建設は、結局原発立地と同じことになると厳しく批判しました。

質問や意見交換

Q1, 再生可能エネルギーで雇用が増えるのはウソという人にどう話せばいいか。

A, 例えば太陽光発電パネルが途上国でも広く大量に

生産され、各国で送電網通じ従事する人々が増えている事実でも説明できる。

Q2, 北海道や九州で風力や太陽光が増えているが、神戸・大阪など大都会や市街地での発展はどうなるのか。
A, 確かに自然エネルギーなので地理的条件は大変高い。例えば、あらゆる家に太陽光をと宮城県ではどの家にもリフォーム助成制度を広げ太陽光設置にも補助を厚くし、地元工務店も大きく潤う施策を行い、さらに国にも応援せよと求めている。

Q3, 核燃料サイクルが破綻していると言うがどこに問題があるのか。

A, 「もんじゅ」廃止を例にとると、元々技術が確立していないのに厄介なナトリウム・プルトニウムを扱う装置をつくり、動かすために次から次へとお金をむちゃくちゃ使った結果ダメとなった。莫大な税金の浪費だ。



Q4, 原発許容の人たちは「我々が生きている間に事故はない」との確率論で発言するがどう考えるか。

A, 元々原子炉の中はブラックボックスで誰も肉眼で見たものはいない。事故の確率はアメリカから10万年に1回程度だと教えられ、盛んに発言する人もいるが、実際は数十年に数回（スリーマイル・チェルノブイリ・福島・JCO）起きてしまった。

Q5, 原子力業界の技術的ズサンさが心配だ。福島の排気筒解体でもクレーンが1台届かないとか凍土壁も完成しないとかよく報道されるどうか。

A, 業界はそれなりに一定の技術水準はあると思うが、原発利益共同体は原発をつくってもうけ、事故が起きると復旧でもうけ、廃炉でもうける、という姿だ。凍土壁の実験はきっとリニア新幹線のトンネル工事に役立たせるためにやっていると思わざるを得ない。

Q6, 電力買い取りのFITで2019年問題があるがどう考えるか。

A, 買い取り年数の経過後関電は8円にするとか東電は11円するとか言うが、これは我々がもっと手を繋いで政府や電力経営者とけんかしてでも闘うべきと思う。

Q7, 屋根や田畑などに太陽光発電が増え、一応契約メンテナンスはあるが長年になると保守や修理、田畑では様々な障害も出る。

A、これこそ地域の中小業者が新たな業種として発展させていくべきではないか。

Q8, 石炭火電で神鋼とたたかっているが関電の対応はどうか。

A、原発オンリー関電が一方では「神鋼の問題」として取り合わない卑劣な姿勢を批判しよう。

Q9, FITの10年経過問題では自家発電へ向かうが蓄電池が重要と思うが。

A、蓄電池の開発状況はここでは答えられない、蓄電池以外にも電力を例えば水素で蓄えるなどいろいろな方法もあると思う。

Q10, 津波被害は多く議論されているのに比べ“引き波”によって原子炉の冷却が不能となる問題もあるが。

A、議員の時、島根原発の排水溝の高さを問題として設計変更させた。いま高浜原発の想定がおかしいと思うので国会へ問い合わせて中だ。

Q11, 九州などで原発出力が制御出来ないとして太陽光を止める事態だが原発の出力制御がなぜ出来ないのか。

A、原発の出力制御は技術的にはいろいろ出来るがこれを頻繁にすると原子炉の温度変化が頻繁となり、すべてがもろくなるのでダメとしている。

貴重な意見を頂く

『意見』1: 原発ゼロ法案の勉強に来たけど技術論が多くなっている。避難者が4万に減ったと発表しているが家族知人関係含めると10万人はいるというのが現状だ。大学ゼミで現地で深刻な話を聞き心配する青年も多い。けれどもこれを解決するためどんな活動があるかとなると、「だって政治は変わらないよ」と学生達の政治への期待は皆無に近い。だからこそ、原発ゼロ基本法案が実現したら、こんな日本の暮らしになるんだ、このように変わっていくんだという具体的なイメージをもっと広げてほしいと思う。

『意見』2: 電力の職場では「原発の悪口はやめてくれ」の声が多い、けれども話し合うと、自然エネ発電がも

っと増えて主流になれば原発は不要となるのが当然という声となってきている。

『意見』3: 講座で取り上げてほしいテーマの一つ。「原発利益共同体」のそれぞれが福島原発事故以降、今どんな状況となり、今後どんな方向へいこうとしているのか、ぜひ知りたい。

《吉井講師と岡崎事務局長のまとめた発言》

1, 東電福島第一原発事故から8年半が経過するが、破壊されたふるさと、国内難民の実態、収束されない現場、これらをありのままにつかみ、自分のこととして広める努力をしよう。

2, 日本列島は、地震であれ火山であれ、いつも動いている。さらに異常気象で洪水・豪雨・豪雪・高潮などで想定外被害がどこでもあり得るので、原発の稼働や運転は直ちに止めねばならない。

3, だからこそ、地域の循環型経済発展の基盤となる自然エネルギー発展のため、住民・自治体・農林漁業・中小企業の合意ですすめる地方政治の確立が急務だ。

4, 目前の2019年参議院選挙で『原発ゼロ基本法案』を実現させる野党共同勢力の勝利へ全力上げよう。



「恒常的な学習講座」の案内

日時：2019年8月8日・木・15~17時

場所：兵商連会館（阪急・阪神・山陽・神鉄・高速の新開地駅から南3分）

第5回『自然エネ発電の発展状況とさまざま問題点』

パワーポイント画像で説明します

以下予定……

第6回・10/10 = 希望されているテーマで企画

